

そなエリア東京とANA機体整備工場見学会の記録

災害の体験学習と飛行機の整備工場の見学

2018/01/27

記録者 川崎の産業観光を支援する会 事務局 根岸雅明



2018.1.29

そなエリア東京とANA機体整備工場見学会の記録

支援する会事務局 根岸雅明 記

【概要】川崎市観光協会主催の上記の見学会に川崎の産業観光を支援する会の役員5名がスタッフとして参加しました。以下はその記録です。

そなエリア東京は防災に備える力や対応力などを体験と学習を通じて楽しく学ぶ施設です。そなエリアとはそなえる+エリアの造語とのこと。この地区は大規模な災害が発生した時に災害対策本部が設置される場所になっています。

ANA機体整備工場は機体の定期的な点検整備の様態を案内していただき巨大な飛行機をまじかに見て整備の主な流れや内容を見て、知って、学びました。

【日時】平成30年1月27日（金）9:15～15:40

【場所】そなエリア東京…東京都江東区有明 3-8-35

ANA機体整備工場…東京都大田区羽田空港 3-5-4

【参加者】そなエリア東京 26名、ANA機体整備 31名
スタッフ

主催者川崎市観光協会 安永部長様、船田様、
川崎市 観光プロモーション推進課森係長様
支援する会 大矢会長、石毛、加藤、山部、根岸の5名

【地図】見学先の地図



そなエリア東京



ANA機体整備工場

【感想】そなエリア東京の見学者は9時15分に現地集合。土曜日と国際展示場での催しものがなかったおかげで比較的交通機関が空いていて集まりやすかったのではないかと思います。

親子ずれの家族が多かったのが印象的でした。若い女性のお友達との参加も見受けられました。何人かはチラシや観光協会のホームページでこの見学会を知ったと話されていました。支援する会のミニツアーと年齢構成がだいぶ違いました。若い人たちが多かったのも土曜日ということで参加しやすかったのだと思いました。

そなエリア東京での災害時の重要なキーワードは大規模災害時に72時間内にどう生きれるかがテーマになっていました。支援体制が整えられるまでの3日間の72時間を自ら生き残らなければならない。

体験ゾーンではタブレット端末を使ってのクイズ形式で災害時の対応等を学んでいきます。映像ゾーンでは動画を見ながらアニメの姉弟が災害にどのように対処していったのかを学びました。とてもリアルでわかりやすく災害の備えが如何に大切かを身をもって学ぶことができたのではないのでしょうか。

見学終了後、羽田国際線ターミナルに移動してランチ休憩。国際線ターミナルでは各自好きなコーナーでランチをいただき施設の大きさや外国人のお客さんの出入りを見たり、展望デッキでは飛行機の離着などを見学出来たのではないのでしょうか。

ANA機体整備工場に移動後、14時から女性のアテンダーの方から整備工場の見学にあたる注意事項や整備の流れなどの説明を受けました。ヘルメットを着用後、航空機のある格納施設を見学。

整備機体を納める第一格納施設は奥行き100m×幅230×高さ40mほどあるそうです。全部で7機収納できるそうです。その隣に3機収納できる第二格納施設がありました。

整備する飛行機の周りは鉄の骨組みの自動足場が備えてありました。巨大な飛行機を整備するために高所作業になるので安全には十分配慮している施設だなどと思いました。

ドック整備の流れでは出発前整備から500～1,000飛行時間毎に行われる整備、4,000～6,000飛行時間毎に行われる整備、約6年たつと行われる整備などの説明を受けました。整備には飛行時間毎に整備日数があり1日に概ね50人から70人で整備しているそうです。

機体をまじかに見てその大きさに圧倒されます。機体の車輪を見たり操縦席の窓ガラスや交換用のエンジンなどを見学しました。

1機の整備に多くの人たちがかかわっているのが分かりました。機体横にある打ち合わせ室のテーブルには整備士たちが打合せをしている様子も見られました。

ANAでは現在約250機保有しているそうです。これらの機体を安全に飛行できるように日夜整備に励んでいる様子がよくわかりました。説明を受けても機体の細部は理解できませんでしたが、機会があればこのような見学会に何度でも足を運んでより深く学びたいと思いました。

【写真】



そなエリア東京の玄関



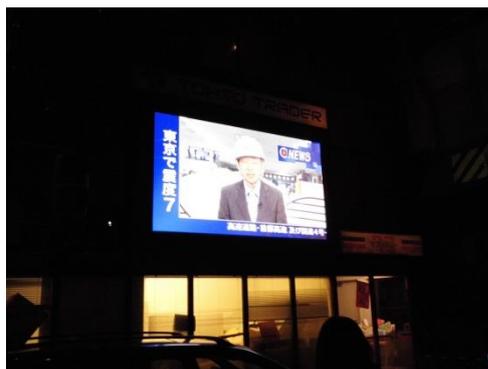
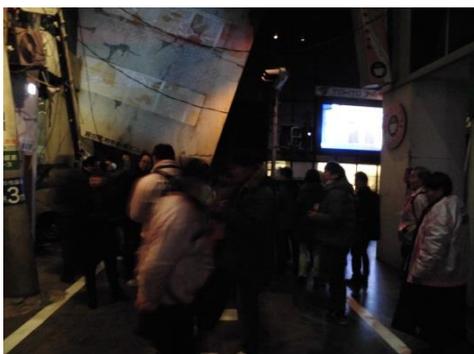
受付を済ませて主催者から説明をお聞きしているお客さん。



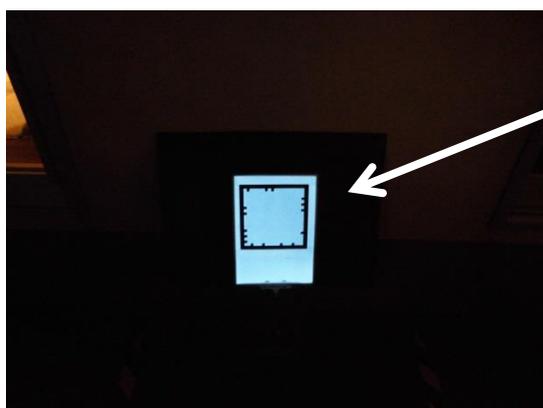
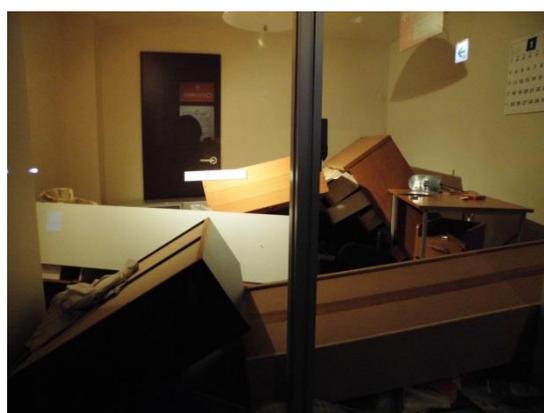
そなエリア東京のガイドさんから入場に伴う案内をお聞きする。



タブレットを首にかけて操作する方法を教えてください。



体験ゾーン



それぞれの被害場所でタブレットを左のコーナにかざすとタブレット端末にクイズが表示されてそれに答えながら災害を学ぶ形になっている。



振動実験を映像で見る。地震の凄さや怖さを理解する。



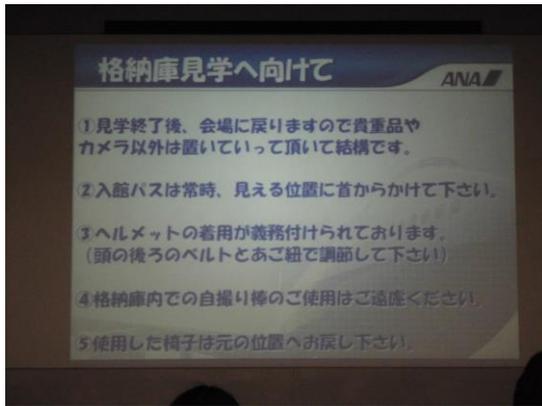
中央公園コーナーでの学び。
同じくタブレット端末をかざすとクイズが
出題されてそれに答えながら災害を学んで
いく。



対策本部となる場所。テーブルには沢山のPCが備えられてありました。



そなエリア東京の見学会終了後、国際展示場駅より臨海線、モノレールを乗り継ぎ羽田国際線ターミナル駅でランチ休憩。



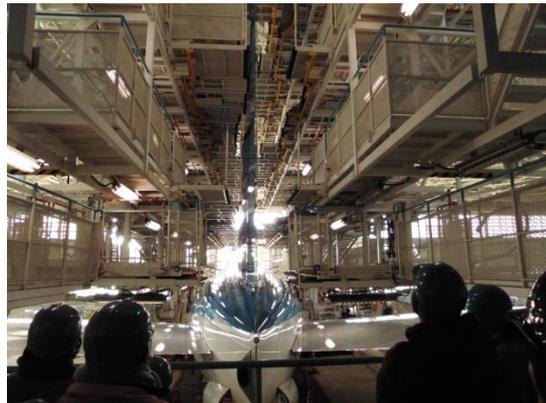
見学に先立ちアテンダーより見学の注意事項や整備工場の概要をクイズを交えて説明を受ける。



位置図。手前がD滑走路。



ボーイング 787 の機体。格納施設は奥行き 100m×幅 230×高さ 40m
この格納施設には 7 機格納できるそうです。



飛行機本体を挟むように天井クレーンから移動された鉄骨の自動足場がありました。



黄色と青の天井クレーン



飛行機のタイヤ。ブリジストン、横浜ゴム、東洋タイヤ、ミュッシュランなどいろんなメーカーのタイヤを危機管理のため使っているとのことでした。このタイヤは走行方向に溝が彫られていてその溝の深さで交換時期を判断するとのこと。



エンジンの排気口のギザギザは騒音低減のためとか



エンジンはロールスロイス社で約 20 億とか。



飛行機の前の部分の足



メインランディングギア 3 本が大型、2 本が中型、1 本が小型だそうです。



ANA機体整備工場より川崎方を望む。D滑走路ができて飛行の空域制限のため頭部を切られた浮島の換気塔が見える。